

第8回 熱海市図書館協議会会議録

開催日時	平成31年2月21日(木) 14時
場 所	熱海市立図書館5階 第2会議室
出席者	協議会委員 井上弘、野崎たみ子、諏訪村京子、櫻井恭子、三島木裕子 事務局 山田真士、鈴木秀明、川口京子
次 第	1 会長挨拶 2 議題 (1) 委員の再任について (2) 視察(函南町立図書館)の感想(当館が参考とする点など) (3) 再任について 3 報告事項 (1) 市民アンケート結果 (2) 電子書籍の導入と現在の状況について

協議内容

- ・事務局より委員の再任について説明及び依頼し、諏訪村委員・櫻井委員・三島木委員の同意を得る。(井上会長・野崎委員については辞任の申し出があった。)

会 長 昨年11月に視察に行った函南町立図書館の感想や気付いた点等について意見を聞きたい。

委 員 視察に伺ったのは2回目であったが、最初に訪問した時よりもさらにきめ細かく動いている函南町に驚いた。役場内の他部署や県立高校との連携や、館内の様子を見てそう思った。また職員がいきいきと仕事に取り組んでいる様子が、展示方法などから見えてきた。説明をしてくれた職員の方が函南図書館は良い図書館であると思っているので図書館に来てほしいと話していた。まだ一回も図書館に来たことがない子どもがいる限り親子見学会を続けていく、他にも図書館でやりたいことが次々と出てくるなど、職員の前向きな発言にとっても驚いた。優秀な心のある職員がいると図書館は大きく変わるのだなと感じた。

図書館と子育て交流センターが併設されている。そのことによって図書館で定期的開催しているおはなし会に子育て交流センターに遊びに来た親子が参加してくれると聞いた。今後熱海市で図書館を建設するとき、単独館というのは難しいと思う。複合施設となるのであれば、函南町の良い実績があるので、子育て交流センターと一緒にできれば良いと思

う。

委員

子どもからお年寄りまでというところが100%までとはいえないまでも実現できていた。また、ヤングアダルトに関しては、県立高校との連携というところで、田方農業高校と三島南高校の生徒が図書館の活動に加わっている。熱海のヤングアダルトの利用が少ないならば、熱海高校と連携することを取り入れ活動してほしい。また、来館を待っているだけではなく移動図書館で出向いてほしい。熱海高校は企業のアイデアを募集したり積極的に活動している高校であるので図書館として支援できるものがあるのではないかと感じた。

郷土資料に関しては、丹那トンネル・ジオパークなど郷土の展示物と情報を結ぶパスファインダーが用意されていて、郷土資料の紹介に積極的であると感じた。

委員

施設の点から言うと、熱海に比べ立地条件が良い。駐車スペースが多い。知恵の和館との併設もうらやましかった。

一番感動したのは図書館で働いている職員の熱意が感じられてすばらしかった。展示物や掲示物、パスファインダー、ヤングアダルト通信等非常に優れたものをつくっていてすばらしかった。

職員が作った作品を展示し、参考にした本を紹介するファイルが用意してあったり、探している本の場所まで案内してくれたりサービスも行き届いていた。

熱海は移動図書館があり地域を巡回しているが、函南町は移動図書館がない代わりに地域を巡回しているバスがあり、そのバスを利用し図書館へ来ることができるというような他部署との連携ができているというところがすばらしかった。

委員

図書館に行きたいと思わせる雰囲気があり、環境が良いと思った。母親目線で言うと子育てセンターと併設されているので、小さい子どもと長時間過ごすことができる。食事をするスペースもあり、居心地が良い施設だと思った。雰囲気作りはとても大事なことであると思う。ヤングアダルト世代の利用が少ないということなので、自身の子ども(中・高校生)に図書館へ行きたいと思うか聞いてみたところ、娘はテスト期間中にテスト勉強のために利用しているが、学習室はあっても、飲食もでき自由に話すことができるフリースペースがないので行かないと言っていた。息子は部活動が忙しく行く時間がないと言っていた。函南図書館にはフリースペースがあったので、雰囲気作りが大事であると思った。

会長

非常に「きれいさ」を感じた。この「きれいさ」は行きたいと思う気持ちに繋がるのではないかと感じた。しかし、ガラス張りの建物は確かにきれいでは

あるが、その反面、安全性と本の保護に対し、図書館として機能的にどうかと疑問を感じた。熱海の図書館としての問題のひとつとして、駐車場が少ないという点がある。函南も駅から離れた場所にあるので駐車場は大事である。ただ文化センターの隣にあるので利便性はあるが、文化センターは大きなホールなので、行事が重なったときは図書館利用者が駐車場を利用できなくなるのではないかと感じた。やはり駐車場は大きな問題・課題である。職員はいきいきしていると感じた。

図書館は本が命であるが、そこに働く職員がどのような思いで、どのように仕事をしていくかで価値が決まる要因となると感じた。

一緒に視察した事務局の感想はいかがか。

事務局

IC タグを導入したことにより、蔵書点検等がスムーズに行え、紛失する本が少なくなったということを知り、すぐに導入することは難しいが、将来的には考えていかなければならないと思った。勤務体制については、館長が兼務館長であるためほとんど図書館にいないことはなく、係長を中心に正規職員3名・臨時職員12名で業務を行っているということであった。正規職員の人数だけで言えば熱海は8名いるので、そこについては恵まれていると思う。函南も熱海市と同様正規職員は異動があるが、臨時職員をうまく使って継続的に管理を行っているという点は熱海市も考えていかなければならないと思う。熱海市は臨時職員を雇用するに当たりいろいろな制限があるので、これから人事担当へ提言を行っていききたいと思う。

これからは行動する図書館として動いていかなければならないと考えていて、学校図書館の利用や幼稚園・保育園等にアピールし、周知活動を行っていききたいと思う。まずは現状の中でどのようなサービスができるか考え、工夫しながら行動していききたい。

新しい図書館をゼロから作ることはできないので、今あるものを活かし、いかに新しいものにしていくのか考えて行動していききたい。

会長

最近、自身の研究のため小田原市立図書館をよく利用し、必ず本を何冊か借りてくる。返却する場所が小田原駅にあるので大変便利に利用している。熱海駅にも設置したら来館者を増やすことにつながると思う。

次に市民アンケート結果について事務局より説明をお願いします。

事務局よりアンケート結果について説明

会長

「場所が不便」という意見が多いが、多賀・泉地区の方の回答と考えるとよいのか。

事務局

必ずしもそうとは言えない。図書館まで行く交通機関がないというのも不便であるという印象を与えているのかもしれない。

委員 駐車場のスペースが少ないのも要因ではないかと思う。

会長 実態として駐車スペースは今あるものしか確保できないと思うが、市役所の立体駐車場に駐車してくる方はいるのか。

事務局 駐車券サービスについての問い合わせが全くないので、ほとんどいないと考える。自由意見に「駐車できないからあきらめて帰った」という意見があるので、大半の方がそうではないかと思う。

委員 市役所の駐車場が無料で利用できるようにしたら、あきらめる人が少なくなるのではないか。

事務局 総務課と相談し、今後考えていきたいと思う。

会長 次に電子書籍について説明をお願いします。

————— 事務局より電子書籍の導入と現在の状況について説明 —————

委員 電子書籍の導入にあたり、どのくらいの予算を確保したのか。また、電子書籍はどの会社から購入したのか。一度購入するとどのくらいの期間利用できるのか教えてほしい。

事務局 電子書籍は、図書館流通センターより購入した。全国で一番大きいシェアの会社である。熱海は県内で3番目と早い時期に導入を行ったのは、市内に図書館の分館がないため、初島、泉・多賀地区等来館が困難な地区の方が読書をする環境を作りたい、学校連携をはじめ子どもたちが読書を楽しめる環境をつくりたいと考えた。予算金額は、平成30年度は電子書籍使用料として340万円である。電子書籍の使用期間は、①2年間利用できるもの ②2年間または52回利用できるもの ③期間制限なく永久に利用できるもの と3種類ある。

会長 電子書籍を利用するには、スマホやタブレット等を利用し、パスワード発行手続きをして利用する仕組みか。

市民アンケートで来館したことがない人が6割いるのに、この課題をクリアしないと電子書籍も発展しないのではないか。

事務局 おっしゃるとおりである。

そのため現在、小学校や幼稚園・保育園へ出向き、職員や保護者に電子書籍の利用説明を行うとともに、利用登録・パスワード発行手続きを同時に行い、周知活動を行っているところである。

職員は自身の勉強・研究のために利用したい等良い反応をいただいている。まずは職員に知ってもらい、その後保護者へと広めていく。

会長 学校の授業で利用することは可能であるのか。

事務局 教育目的であれば利用は可能である。また町内会等のイベントであっても使用目的ははっきりしており、無料で開催するのであれば利用可能と聞いている。利用に当たっては、その都度相談してもらいたいと思う。

会 長 電子書籍で発行しているものは、ペーパーでも発行されているのか。
事務局 基本的には両方あると思う。

委 員 電子書籍には動く絵本があると聞いて実際見たが、あれは動画であり、
絵本ではないと思うがいかがか。

事務局 そうかもしれないが、動く絵本を推奨しているわけではなく、本へ興味
を持ってもらうきっかけ作りのツールのひとつと考えて導入している。

会 長 時代の流れというか、学校関係の教科書をつくっている会社が電子化へ
走り出している。良いか悪いかは別として、あと数年すれば学校の教科
書として導入され、主流となるのではないかと予想される。

委 員 ツールのひとつと言うが、絵本を140点導入していますよね。
事務局 それは総数であって、動く絵本もあればそうでないものも導入している。
委 員 ページが自動的に動くものが多くあるが、これは動く絵本ではないのか。
絵本というより映像ではないか。

事務局 確かに自動で動くが、手動に切り替え、動かなくする設定ができる。あ
くまでも読書へのきっかけ作りと考えてもらいたい。

委 員 きっかけづくりというからには、図書館としてもうひとつ大事なことが
あるのではないか。例えば、図書館は子どもの心を育てるひとつの機関
であると思う。生の声で読み聞かせることも大事であるということを一
方で伝えていかななくてはいけないのではないか。

事務局 もちろんそのとおりであると考えている。電子図書館があるから良いとい
うのではなく、ブックファースト事業は継続し、平成31年度からはブ
ックセカンド事業を新規事業として立ち上げ、読むことの大切さを伝えて
いきたい。

委 員 しかし、貸出し数が少ないのは10歳から18歳が少なく、0歳から6
歳は実績数がある。実績数がある年齢の子どもが読む動く絵本を勧める
というのは違うのではないか。

事務局 教育委員会において読書時間の減少が問題になっていることと、図書館
にヤングアダルト世代の子どもたちが来館しないという問題が一致し
たので、市の政策として、ヤングアダルト世代をターゲットに電子書籍
の導入を始めた。しかし、学校サイドは、携帯電話を扱うということが
ネックとなり難色を示したため、幼稚園・保育園まで範囲を広げてPR
をし、先生方に利用してもらいたいと考えた。

委 員 それで140点もの絵本を購入したのか。
事務局 最初から購入する予定であった。

委 員 貸出実績があるにもかかわらず、最初から購入する予定であったんです
よね。そして、総務福祉教育委員会において「おすすめは絵本の電子書

籍」と答弁している。

事務局

質問された議員が幼児教育に対し関心がある方であったので、絵本をアピールした回答となっただけである。図書館として絵本が一番とは考えていないのでご理解いただきたい。

電子図書館は、郷土資料をデジタル化して閲覧することで、多くの方に利用していただく事を一番に考えてスタートしたものである。それに付随してできるサービスはないかと考え電子書籍を導入した。そのターゲットとして考えたのがヤングアダルト世代である。今まで英検の問題集などは書き込みをされてしまうと利用価値がなくなってしまうので購入を控えてきたが、電子版であれば購入できる。またライトノベルも発行数が多く、流行があるため本での購入は難しかったが、入れ替えのできる電子版であれば購入できるのではないかと考えた。ヤングアダルト向けを中心に、他の種類を揃え展開し現在に至っている。

委員

おっしゃることはわかるが、絵本に関してだけは良かったとは思えない。スマートフォンの付き合い方を書いてある雑誌の記事にも、反対であるということがはっきり書いてある。読み聞かせの会は20年以上活動しているが、子どもを育てる上で大事であるということで活動している。その考え方に相反すると思う。絵本は大人が子どもに読んで聞かせるものだと言われているのに、それを良しとするということには納得がいかない。議員に対しての答弁もそうであるが、図書館から電子書籍の絵本を勧めているという発言はしないほしい。みんなが納得できるような考えを持って説明してほしい。

事務局

誤解を招くような発言はしないように気をつけ、本来の導入理由をしっかりと発信するように心がけていく。

今後の購入については、指摘いただいたことに注意し、改善して進めていきたい。

委員

いろいろな説明の中に「政策」という言葉が出てくるが、熱海市総合計画で「市民参加」と謳っている。市民が政策に関して知ることができると思うので、新事業を始めるときには、図書館だけで決定するのではなく、協議会でも説明や話し合いをしてもらいたいと思う。

事務局

協議会は館長の諮問に応じるとともに、図書館の行う図書館奉仕について館長に意見を述べる機関であるので、「市の政策」と「市民参加」とは別のものであると考えます。

委員

たいへんな税金を使って行う事業であるので、そちらだけで考えて行う事業ではなかったと思う。いろいろなところで情報公開もあるが、図書館理念に「市民とともに歩む」とあり、市民参加型の図書館を目

指しているのに、市民と歩んでいない。上からの命令で始めた電子書籍というイメージで、みんなが望んだ、導入してほしいという意見が一切なくはじまった事業なので「市民とともに歩む」という理念と違うのではないかと思う。導入前に意見交換をする場があればみんなが勉強できたので、違う方向があったのではないかと思う。

せっかく図書館協議会があり、委員は市民の代表としてきているので協議会について考えてもらいたい。

事務局

おっしゃることはわかるが、今までみなさんからもらった「駐車場が少ない」「来にくい」等の意見を総合した中で、政策として導入したものであって、この協議会で協議してから事業を決定するものではないということをご理解いただきたい。しかし、この導入によってすべてが解決するものではなく、修正しなければならないところは直していきたいと考えている。今後も政策にかかるものは、協議会で話し合ってから決定することはない。

理念に基づいて、市民の意見が必要なものについては協議会の委員の皆さんに投げかけ意見をいただくが、協議会は事業や政策を決定する場ではないということをご理解いただきたい。

委員

言わんとしていることは理解できる。ただ、他市町の協議会の議事録を見てみると、年度の初めに1年の事業計画の説明がある。今回はその説明がなかったので、このような感じになってしまったのではないかと思う。来年度は説明いただきたいと思う。

事務局

了承した。来年度は館長として諮問したことについて、協議会として答申を出してもらい、合致した考えを持ち、政策を組み、予算を組んでいく。

委員

郷土資料のことであるが、電子書籍とは別に郷土資料を構築する予算はあるのか。

事務局

今後、計画的に確保していく。

委員

今まで図書館の3階閲覧室内にあった郷土資料の紹介コーナーがなくなってしまったが、どうしてか。

事務局

昨年までは図書館内の郷土資料室が企画し展示していたが、管轄が生涯学習課に異動したことにより、展示場所を起雲閣に移し行っている。また図書館内で展示できるよう検討しているところである。

委員

電子書籍サービスを開始して3ヶ月余り経つが、利用回数等数字的なものは把握されているのか。

事務局

アクセス回数は、現在までで4,000回を越しているところである。人口規模や導入している書籍の種類も違うので、すでに導入して

いる浜松市や磐田市とは比べることはできないが、順調に進んでいるのではないかと考えている。しかし、電子書籍の導入を知らないと言う方もいるので、今後も周知活動は必要であると思う。
3月末で統計を取った数値をまとめ、あらためて報告したい。

閉 会

図書館協議会 委員

〔図書館法〕

第十四条 公立図書館に図書館協議会を置くことができる。

2 図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする。

第十五条 図書館協議会の委員は、当該図書館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

〔熱海市立図書館条例〕

(図書館協議会)

第6条 法第14条第1項の規定により、協議会を置く。

2 協議会は、委員7人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、熱海市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者

(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者

(3) 学識経験のある者

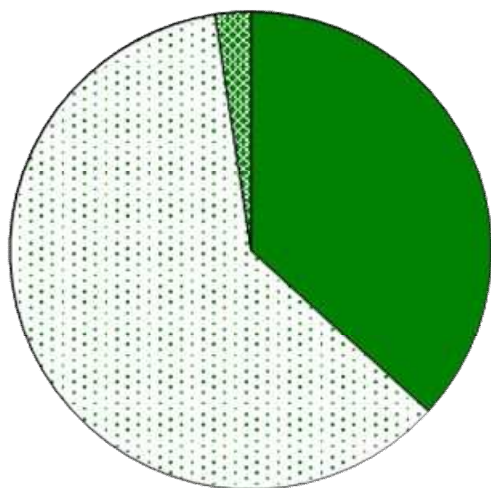
(4) 公募による市民




4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

* (再 任) 2年 (平成31年4月～平成33年3月)

熱海市立図書館の利用状況について。

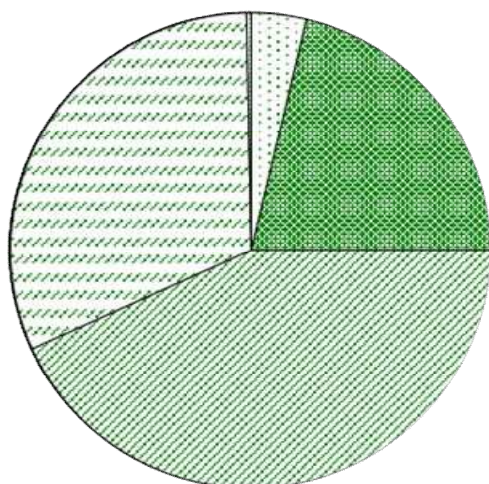
問19. あなたは、移転後に図書館を利用したことがありますか？









	利用したことがある	324人	36.8%
	利用したことがない	536人	60.8%
	無回答	21人	2.4%

「利用したことがない」と回答した人が 536 人 60.8%で、「利用したことがある」の 324 人 36.8%を大きく上回りました。

問20. 移転後から、どのくらいの頻度で熱海市立図書館を利用していますか？
(※問19で「1. 利用したことがある」と回答した人、324人対象)



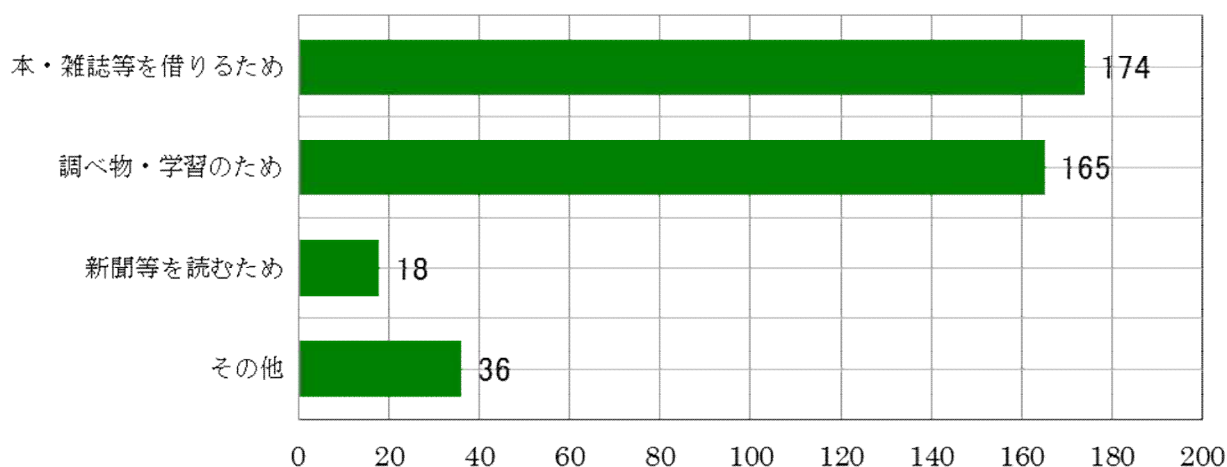
	ほぼ毎日	0人	0%
	週に数回程度	12人	3.7%
	月に数回程度	69人	21.3%
	年に数回程度	140人	43.2%
	ほとんど利用していない	102人	31.5%
	無回答	1人	0.3%

対象者 324 人の利用頻度は、「年に数回程度」利用していると回答した人が最も多く 140 人 43.2%、次いで多かった回答は「ほとんど利用していない」と回答した 102 人 31.5%でした。

熱海市立図書館の利用状況について

問21. 熱海市立図書館の利用目的は何ですか？【あてはまるもの全部】

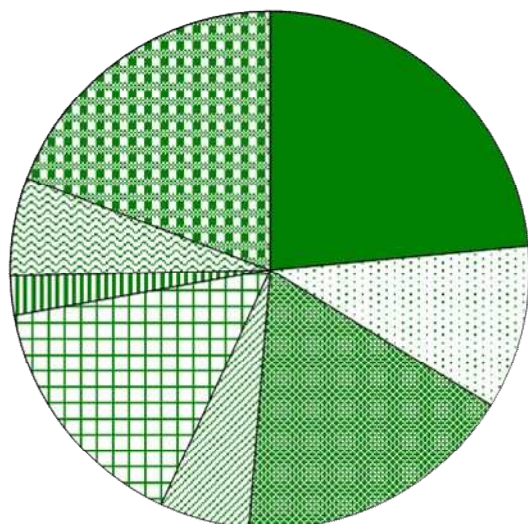
※問19で「1. 利用したことがある」と回答した人、324人対象



□その他の回答: 展示物/会議室使用/子供との読書時間を作る。室内の施設では他に利用しやすいところがない為、雨天の時は子供ともよく利用している。/子供が学習の為利用しています。/静かな時間を味わう等/古地図を見に行くため。/子供の学校での読み聞かせの為/仕事のため/こどもに本を親しんでもらいたいため/読みたい本を借りに行くが、本の数が不足で借りたのは1回のみ/CD その他/CDを借りる/自習など/子どものつきそい/どんな図書館か移住したばかりなので行ってみようと思った(2013年)/催し物のチラシを置いてもらう為/図書館での読書/読み聞かせに参加/どんな本か内容を知るため/トイレ、休憩場所/サークルの集り/時間つぶし/幼児英会話/自分自身はほとんど利用しないけど、子供が本などを借りに行くため。/若い時は借りていました。/勉強をしに行く(学校の、本で調べ物はしない)/仕事をするため利用/~展などや本の特別綴じ方教室への参加/本は借りないけど雑誌、旅行の本を見てかえる/朗読/勉強

熱海市立図書館の利用状況について

問22. 問19で「2. 利用したことがない」と回答した方（対象536人）にお尋ねします。熱海市立図書館を利用しない、主な理由は何ですか？



■	場所が不便だから	126人	23.5%
□	時間がないから	55人	10.3%
■	本は自分で購入するから	94人	17.5%
■	場所がわからないから	30人	5.6%
■	調べ物は電子書籍かインターネットで済みますから	82人	15.3%
■	読みたい本がないから	13人	2.4%
■	その他	33人	6.2%
■	無回答	103人	19.2%

□その他の回答: 本を読むのが嫌いだから/視力が悪くなり字を見ると頭が痛いため/今の所必用がない/特に目的がないから/遠いから/足が悪くていられない/本がきたない/行ってみたいと思わせる雰囲気がない/本に興味がない/泉からは不便/行きたいと思いつながらなんとなく/本を読む意欲がない/関心がない/行く必要がないから/借りたい本が借りられないから/特に理由はない。/本を読むのがおっくうになった/不要/交通の便が悪いから/車を止めるスペースが少ないから/勤務先(東京)近くの図書館を利用しているので/仕事をしていて忙しいので/遠い/交通が不便。駐車場が少ない。/駐車施設が少ないから/利用する必要がまだない/そこまでして読みたくない/必要性がない/利用する事がない。本を読まない

自由意見欄抜粋

- 年をとると一番の楽しみは読書です。図書館の場所が不便なので、市役所の裏の旧岡本ホテル跡にお願いしたいです。
- 熱海市立図書館、駐車スペースが少ない。何度もあきらめて帰ってきました。
- 下多賀地区には公共施設が全く無く、図書館が無い街とは、最悪です。
- 図書館について休館日、市役所でも本の返却ができるように、返却ボックスを置いてほしい。あと、近隣他市と比べて本の数、種類がすごく少ない。
- 図書館を広くしてほしい。場所を変えてほしい。
- 図書館は、民間委託絶対反対です。
- 市の図書館は駐車場が狭いので、孫達もいつも伊東図書館を利用させてもらっています。小さい孫にも職員の対応が良いので、伊東までわざわざ行きます。
- 図書館の学習室を利用したくても、隣でイベントをやっていたり児童館の声が気になって最近是利用していない。自習室の場所を工夫してもらえると、落ちついて学習でき、イベント、子どもたちも気をつかわずに楽しめると思う。
- 福祉会館、図書館他等々利用する近所の方々は歩いて行けますが、私どもは1回出るのに1060円掛かります。フリーパス(70歳以上に)大至急願います。
- 人口が減っているのは日本中どこでも同じだが、熱海は教育に力が入っていないと感じる。小学校中学校にプールがない、市立図書館や学校図書室の充実が必要。観光にだけでなく子供たちのためにお金を使ってほしい。

電子書籍導入の経過

1 《教育委員会新年度予算ヒアリング》

- ・平成30年度予算編成に電子書籍の導入を検討（電子書籍の導入資料編を説明）
- ・平成30年度教育委員会政策として予算計上が決定

2 《市長・副市長への説明》（二役ヒアリング）

（電子図書館の目的）

電子書籍は、図書館に来館しなくても24時間貸出利用が出来るサービスです。将来ブックバスの代役を務める事を期待すると共に、幼児家庭や高齢者・障害者に対応する情報バリアフリーとして、読上げ機能を有する絵本や活字を拡大して読める機能など様々な場面での活用を見込んでいます。平成30年度図書館年報で、特に中高生の図書館利用割合は0.48%・0.24%と中でも低く、また読書時間も減少傾向との結果が出ています。これら問題点の改善や図書館の地理的問題や駐車場問題等を解消するための方策の1つとして導入いたします。

*電子書籍の導入は県内3番目（磐田市・浜松市）

《新年度予算確定》市長より電子書籍の導入許可

（電子書籍購入状況）

平成30年度 購入 1,001点

（内訳）小説 306点 一般書 220点 中高生向けライトノベル等 249点 児童書 91点

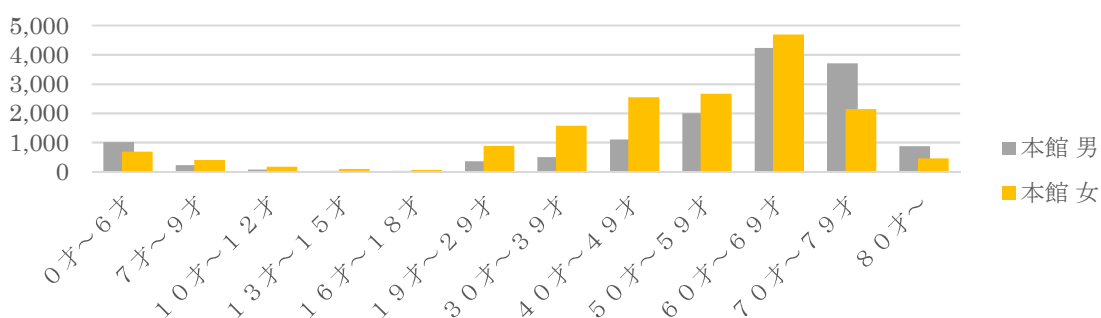
絵本 135点

○電子書籍の導入について（資料編）

【現状】

- ・ 10才～18才（ヤングアダルト）の利用率が全体の1.62%と低く、60歳以上は50.92%と全体の半数を占める。（図書館年報2017）

男女別・年代別利用者数状況 本館



- ・ 登録者数16,342人に対し、延べ貸し出し人数が37,612人と低いことから、継続的に利用する人が少ないと考えられる。
- ・ 高齢者向けの活字が大きい大活字本があるが、通常の本よりも重く大きく、高齢者が利用するには不便である。
- ・ 図書館に来ることが困難な人のために移動図書館を運営しているが、平日の運営だけのため利用者が少ない。
- ・ 初島に本を1年に一度届けているが、最新の本を届けることができない。
- ・ 郷土史料のうち、著作権が切れ公開できるものをデジタルライブラリーとして公開しているが、検索ができず必要な史料を探すのが困難である。
- ・ 在住外国人が増えてきている、また2020年に開催される東京オリンピックに向け、多言語の資料が必要であるが、価格が高価であり、1つの資料に対し何ヶ国語も揃えることが困難である。

【課題】

- ・ 10才～18才（ヤングアダルト）の利用率を向上させること。
- ・ 高齢者・障害者向けサービスの充実（障害者差別解消法への対応）
- ・ 来館することが困難なひと（初島・南熱海・泉地区等）のためのサービスの拡充
- ・ 郷土史料の整備、利用促進
- ・ 多言語資料の収集

【対策】

- ・電子書籍及びデジタルライブラリーシステムの導入。

【効果】

- ・携帯電話・自宅のパソコンで、24時間いつでもどこでも利用できる。
- ・初島等、図書館から遠い場所に住んでいても、いつでも最新資料を利用することができる。(分室・分館等の新規開設が必要なくなる。)
- ・熱海市の中学3年生の携帯電話所持率が77.5%であり、高校生はこれ以上の所持率であると思われる。そのため、携帯電話で利用できるようになれば、図書館に来館しない中・高校生の利用率向上が期待できる。
- ・文字の大きさ、明るさ等自由に変更でき、高齢者が重く、大きい不便な大活字本を利用しなくても良くなる。
- ・読み上げソフトもあるため、障害者サービスの拡充ができる。(障害者差別解消法に対応できる。)
- ・多言語に対応している電子書籍が多くあり、安価に購入できる。
- ・デジタルライブラリーに検索機能があるため、必要な史料をすぐに見つけることができ、今後行っていく予定である郷土史料整備事業で更なるサービス拡充が見込まれる。
- ・返却期間になると自動的に返却となるため、延滞督促のための郵便料金等の削減となる。また、紛失の心配がない。
- ・親子や学校に人気のあるしかけ絵本等は、破損が激しいため購入を控えているが、電子書籍は破損の心配もなく、また動きがある等、電子書籍ならではの仕掛けがある資料が多くある。

【問題点】

- ・電子書籍の単価が一般書より高い。
- ・電子書籍を読める環境が必要となる。(PC・タブレット・スマホほか)
- ・図書館に電子書籍を読めるパソコンを新たに1台追加する導入費がかかる。